



令和7～11年度
那賀町みらい創造総合戦略
概要版

- ・ 2050年人口ビジョン概要
- ・ Well-being指標調査概要
- ・ 総合戦略全体概要

那賀町2050年人口ビジョン概要

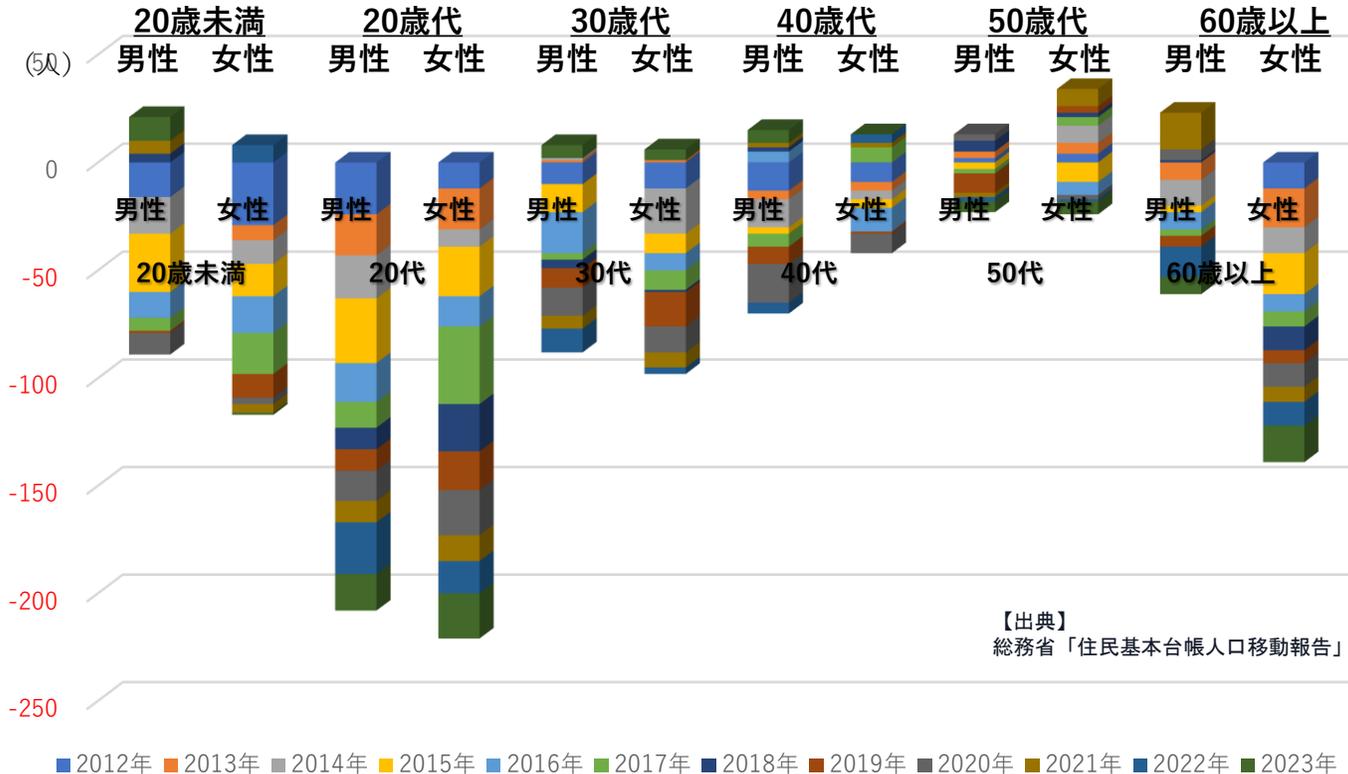
国立社会保障・人口問題研究所の公表データ2024（那賀町の2050年人口推計）

自治体名	分析結果				2050年人口（移動想定）			2050年人口（封鎖人口）			2020年	
	9分類	前回比較 (消滅可能性)	前回比較 (増減率の分類)	前回比較 (増減率)	若年女性 人口減少 率(%)	若年女性 人口	総人口	若年女性 人口減少 率(%)	若年女性 人口	総人口	若年女性 人口	総人口
那賀町	C-①	γ-①	△②	△5.0	▼78.7	71	2,575	▼19.2	269	3,679	333	7,367

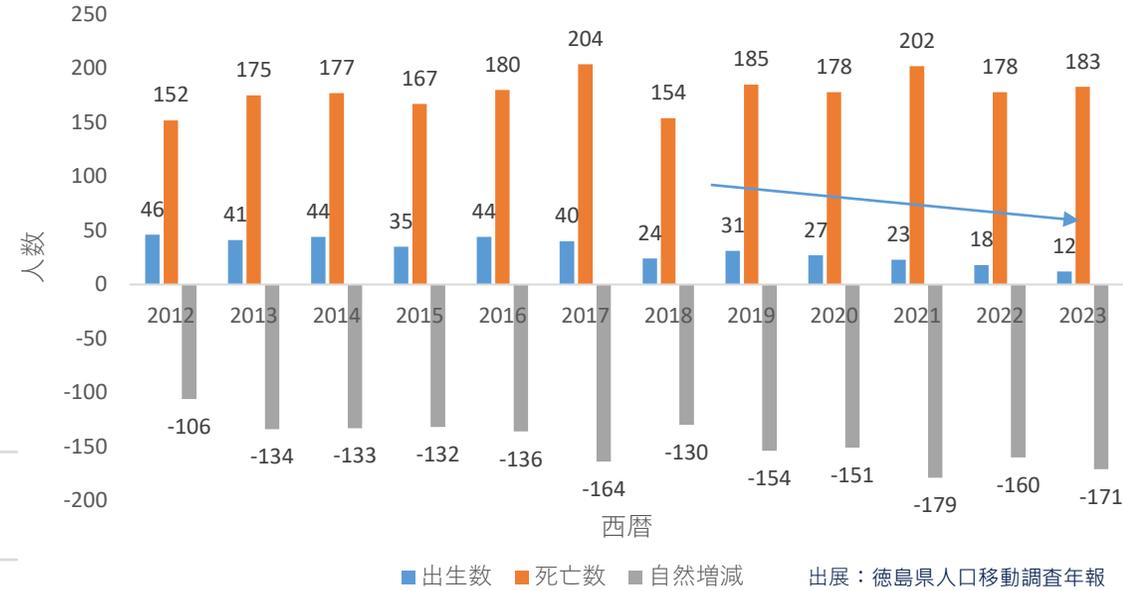
総人口65%減！

若い女性の転出が激しいとして、「人口の社会減対策が極めて必要」との指摘。消滅可能性自治体に該当。

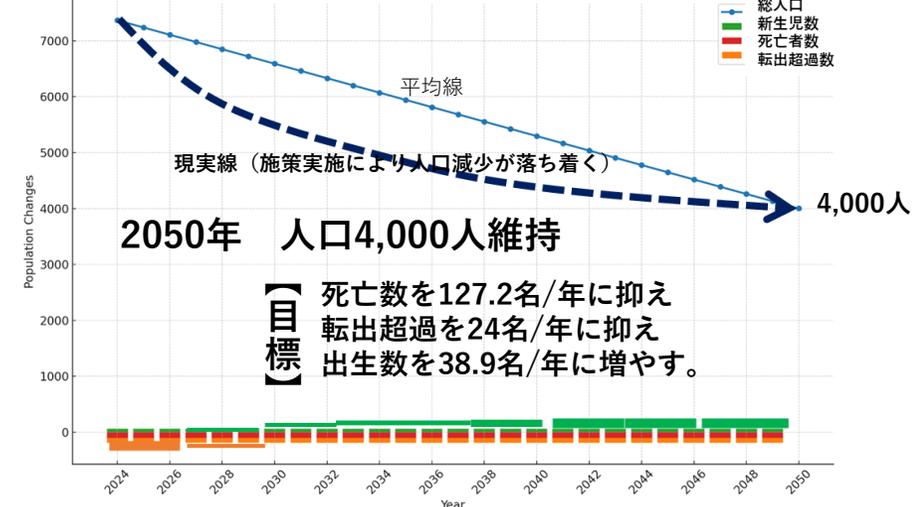
年代別男女別転出入超過グラフ（2012年～23年転出入超過合計）



那賀町人口自然増減



那賀町人口動態シミュレーション（2024～2050年）



那賀町2024年Well-being調査結果 概要

アンケート調査結果から見るWell-beingグラフ

【目的】

住民の皆様の町の暮らしに関する現在の幸福度や課題感を図り、それに基づいて、令和7年度からの総合戦略に記すべき具体的な政策を策定し那賀町の幸福感あふれるまちづくりを推進しようとするもの。

【対象】

那賀町在住の全住民のうち、中学生以上

【調査期間】

令和6年8月5日から8月末日まで

【調査方法】

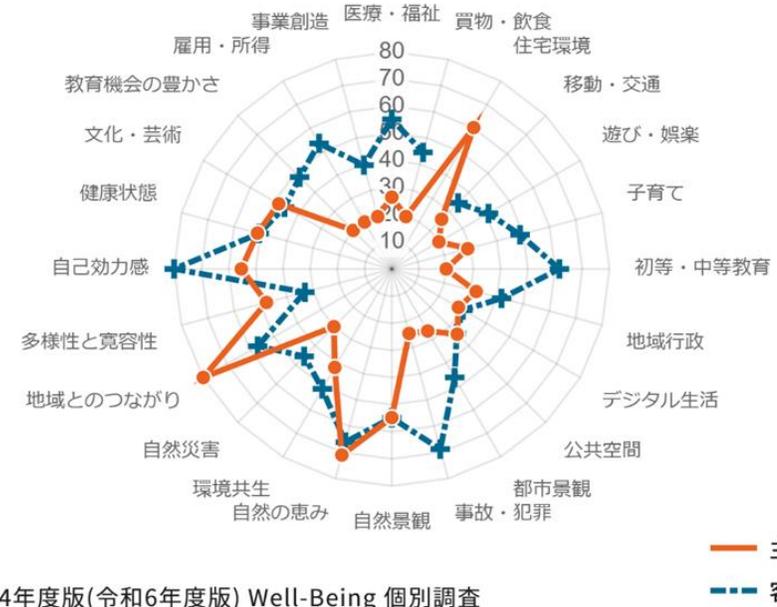
広報なかにアンケート用紙を挟み込み全戸配布（各戸2セット配布）し、郵送にて投函回収。回答用紙にQRコードを付けて、インターネットによる回答も可能とした。

【回収枚数】

紙にて回収した数 1,043枚（うちインターネット回答45件）

【質問内容】

「地域幸福度（Well-Being）指標利活用ガイドブック」（デジタル庁）に基づく調査項目に本町独自の設問を加えたもの。



【出典】2024年度版(令和6年度版) Well-Being 個別調査

◆このグラフから読み取れること

- ✓ 円の外に向かえば向かうほど幸福度が高く、内側に向かうと幸福度が低いという見方をするグラフです。
- ✓ オープンデータから構成された客観データと今回アンケート回答より得られた主観データを比較すると、カテゴリーにより数値が近いものもありますが、レーダーチャートの形状も異なり全体的に大きな差異傾向が出ています。
- ✓ 実際よりも悪い印象を持っている（客観データよりも主観データの方が円の内側に向いていて評価が低い）指標が多く、**全体的に幸福度が低い状態**といえます。例えば、客観データでは、医療・福祉の施設や施策がある程度施されているとなっていますが、実際に暮らしている住民からすると（主観データ）、評価が低く出ており、同様に、初等・中等教育も人口に比してある程度施されているという客観データと比べて、住民の皆様の主観的な満足度（評価）が低く出ています。

客観データを引き上げることはもちろんですが、少なくとも、客観データより主観データの値が低い項目に関しては、住民の満足度を上げる手立て（情報発信精度を上げる等）が早急に必要です。

世界的に認知された以下のふたつの考え方を地域幸福度(Well-being)指標の基本概念としています。

ウェルビーイング (Well-being)

＝「身体的・精神的・社会的に良好な状態にあること」

「健康とは、病気ではないとか、弱っていないというわけではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべて満たされた状態（Well-being）にあること」（WHO）

健康の社会的決定要因 (Social Determinants of Health)

＝「個人または集団の健康状態に違いをもたらす経済的、社会的状況のこと」

WHOソリッドファクト（2003年）に列挙された健康の社会的決定要因：社会格差、ストレス、幼児期、社会的排除、労働、失業、社会的支援、薬物依存、食品、交通。社会的決定要因とは、人間の健康には人間内面（身体・精神・社会）のみならず、外部環境も影響を与えているものとする。

令和7～11年度 那賀町みらい創造総合戦略 概要

人口ビジョン	2050年 人口4,000人維持	【目標】 死亡数を127.2名/年に抑え 転出超過を24名/年に抑え 出生数を38.9名/年に増やす。	第2期の総合戦略（令和2～6年度）で掲げた「2060年に人口4,000人維持」の数字目標をそのまま踏襲するが、10年前倒し2050年とする。 （現状の国の推計では2050年の那賀町人口は2,575人と試算されている）
--------	------------------	------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------

人口ビジョンを達成し、住民一人ひとりの幸福度（Well-being）を向上させる総合戦略を描く。

基本理念	ブランドコンセプト	基本目標	基本計画		
			基本政策	政策分類	主な施策
「もっと住みやすい」「もっと働きた デジタルと豊かな自然が調和した まじ、丸ごと大自然テーマパーク那賀町」	かけめぐる感動 まじ、丸ごと大自然テーマパーク那賀町	基本目標1 那賀町にわくわくした気分で働ける仕事をつくる。	(1) 新しい仕事場の創出 (2) 既存産業の魅力化・スマート化	①スタートアップ・ベンチャー企業孵化、誘致 ②スタートアップ・ベンチャー企業誘致、起業支援 ③事業所の「今」を知るデータの整備 ④林業の活性化、DX推進 ⑤農業の活性化、DX推進 ⑥水産業への新たな挑戦 ⑦観光業の活性化 ⑧建設業、卸売業・小売業その他産業の充実	・スタートアップ、スモールビジネスを含むベンチャー企業誘致、起業支援 ・若手就労者の確保・クレジット販売・データ活用等によるDX推進・木頭杉ブランド化・車海老販路拡大・農作業自動化・鳥獣害対策・働き方改革・DMO連携・女性が働きやすい職場等
		基本目標2 那賀町への新しい人の流れをつくる。	(1) 交流人口を増やす (2) 関係人口を増やす (3) 移住定住者を増やす	①観光地としての魅力度向上 ①お試し移住環境の整備 ②産官学連携の強化 ③ふるさと納税の魅力化 ①移住コンシェルジュの設置 ②賃貸住宅の整備 ③移住者が魅力を感じるにぎわいのあるまちづくり	・滞在型コンテンツ開発・宿泊業誘致・土産品開発・情報発信力強化等 ・お試し移住施策・保育園留学・産官学連携・プロスポーツチームとの連携 ・ふるさと納税強化・ファンクラブ創設等 ・移住コンシェルジュ・賃貸物件確保 ・モデル地区選定開発・シェアオフィス開設等
		基本目標3 那賀町が若い世代の定住・結婚・出産・子育てに希望が持てる地域となる。	(1) 所得の向上 (2) 出会い・結婚がしやすいまち (3) 母になりやすいまち (4) 子育てしやすいまち	①働く場の所得を上げる ①出会いの場の創出と結婚支援策 ①医療機関の整備や妊娠中のサポート ②出産祝いの贈呈 ①地域全体で子供を育てる仕組みづくり ②スポーツを通じた健全な子育て環境 ③那賀高校の魅力化	・若者の所得向上・企業の報奨金制度開設等 ・マッチングイベント・結婚相談窓口等 ・産婦人科までのタクシー補助 ・産婦人科・小児科オンライン導入等 ・ファミリーサポート制度・子育てコンシェルジュ・水上スポーツ活性化・プロスポーツ選手との触れ合い・高校魅力化等
		基本目標4 那賀町を安心・安全・快適なまちにする。	(1) イキイキ長生きできるまち (2) 誰一人取り残さないまち (3) 消防・防災・防犯対策 (4) 自然と調和した持続可能なまち	①一人暮らしの高齢者見守り ②高齢者の健康機会創出 ③定期健康診断・遠隔診療 ①誰一人取り残さない障がい者支援 ①消防・防災体制の構築 ②防犯対策整備 ①快適な住環境を確保する ②環境にやさしい持続可能なまちづくりのための施策	・要援護者見守りシステム・遠隔診療 ・地域公共交通網整備・フレイル予防活動等 ・障がい者就業支援・手話教室開催等 ・消防団拡充・街灯LED化・災害備蓄品確保等 ・上水道、集排等整備 ・再エネ導入・地域経済循環構築等
		基本目標5 那賀町住民のわくわくした生活のためのデジタル基盤構築	(1) 手のひらの役所、手続きDX (2) 那賀町総合データ基盤整備	①住民サービスのスマート化のための基盤整備 ②行かない窓口、書かない窓口へ ③デジタルサポート施策 ①那賀町総合データ基盤AIプラットフォームの構築	・住民マイページ開設・公式LINE開設 ・マイナカードによる手続き進化 ・デジタルデバインド対策等 ・データ基盤構築計画策定等